



学校と家庭をつなぐ、オンライン授業の実施

学年	全学年
教科・領域	国語・算数 等
ICT機器やアプリ名等	Zoom

ICT活用のポイント

- ・授業配信は、端末(カメラ)の2台体制(1台目は教室後方から黒板撮影用、2台目は教室前方のマイク用)で行うことで、授業の様子と教員の声をもれなく配信することができる。
- ・Zoomのアウトカメラ機能ではピンチイン・ピンチアウトの操作が難しいため、画面共有機能を活用し、カメラのアプリ画面を共有することで高画質で鮮明な画面を配信することができる。
- ・Bluetoothイヤホンを接続することで、より教師の指示や説明をはっきりと相手(児童)に届けることができる。

○URLタップで簡単にオンライン参加

- ・予め、学習アプリでURLを配信しておくことでオンライン授業に簡単に参加できるようにした。
- ・1年生に対しては、Zoomアプリを使ったオンライン授業への参加の仕方を、学校で一律に授業内に指導した。

○参加した児童の様子

- ・一日に1、2時間程度、実施。
 - ・オンライン授業でも、黒板が鮮明に見え、音声もハッキリと聞こえるため、教室の児童と同じように授業に合わせ学習することができる。
- ⇒オンライン授業に集中して取り組む様子が見られた。



実際のオンライン授業の様子



オンライン授業配信の説明スライド



アプリケーションの操作に関する 児童向け解説動画の配信

学年	全学年
教科・領域	-
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> Pages Keynote schoolTakt

ICT活用のポイント

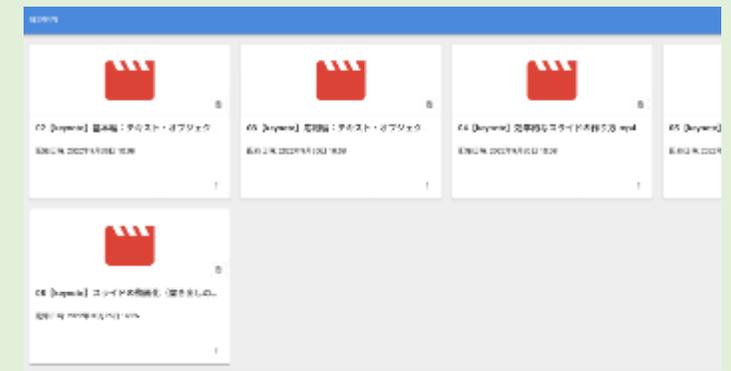
- ・アプリケーションの基本的・応用的な操作を動画化し、クラウド上に保存し、利用者に共有しておくことで、操作につまずいた時に担当がいなくても対応することができる。
- ・児童は操作に困ると自分で動画を選択し、問題を解決しようと主体的な学びを促すことができる。
- ・動画の作成には、画面収録機能を活用することで、実際の操作画面にて操作しながら、音声を吹き込むことができ、簡単に解説動画を作成することができる。

○アプリに関する基本的・応用的な操作について解説

- ・タブレット端末にインストールされているアプリ操作に関する解説動画を作成。
- ・基本的・応用的な操作に関する解説を、実際の操作画面を見ながら視聴することができる。
- ・視聴しやすいよう、動画を3分程度にまとめる。
- ・動画は、児童が見ることができる共有のクラウド上にアップロードすることで“いつでも・どこでも”閲覧することができる。
- ・アプリの応用的な操作は、複雑な手順を踏むことが多く、解説動画を適宜見ることにより、操作に関する疑問やつまずきを解消できるようになった。
- ・教員がその都度、指導する必要がなく業務負担軽減にも役立つ。
- ・動画化しておくことで、次年度も引き続き活用することができる。



児童向け解説動画（一部）



クラウド上での配信（スクリーンショット）



別室教室へのオンライン授業

学年	2年
教科・領域	全教科
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Chromebook ・ Google Meet

ICT活用のポイント

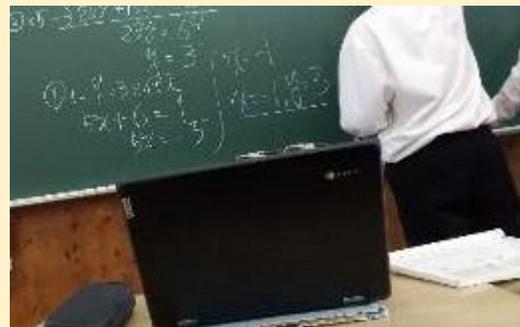
- ・50分間の授業全てにオンラインで参加することは対象生徒に負担があるため、短時間(本事例では10分間程度)で実施している。
- ・教室の生徒はカメラや別室の様子が気になり、そうしたクラスの様子が別室登校の生徒にストレスを与えることも考えられるため、画面を生徒に向けずに授業を実施した。生徒との交流は、必要な時のみ行えるよう配慮した。

○別室登校している生徒のオンラインでの授業参加

- ・別室登校の生徒が、教室と同じ授業を受けられるように、Google Meetを活用して遠隔授業を行った。
- ・別室に教師を配置することで、生徒は分からないことがあると、気軽に質問をすることができた。
- ・オンラインでの学習により、別室登校の生徒が学級の雰囲気を知ったり、クラスの友人と会話をすることができた。



▲オンライン授業を受ける生徒の様子



▲配信用タブレットの設置



▲授業の様子



学芸祭のYou Tube動画配信(家族限定配信)

学年	全学年の家庭
教科・領域	学校行事
ICT機器やアプリ名等	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末 等 ・ YouTube ・ Google Meet

ICT活用のポイント

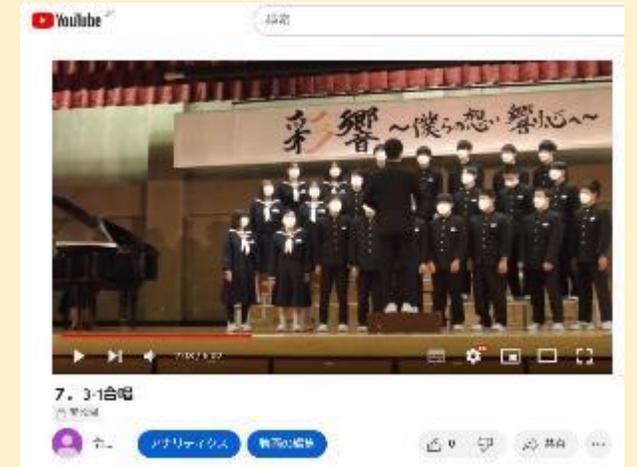
- ・学校に来なくても、その様子が「いつでも」「何度でも」視聴できるようになる。
- ・YouTube限定配信は、検索バーでヒットせず、URLで制限をしている。アプリごとに制限方法が異なるため、情報漏洩、著作権の侵害等の危険性を含め、事前に情報収集することが必要である。

○オンラインでの学校行事の発信

- ・学芸祭では、感染症等の影響から、参加できなかった生徒や観覧人数制限で参加できなかった家庭向けに、YouTubeによる動画配信を行った。
※生徒向けにはGoogle Meetによるライブ配信も実施。
- ・YouTubeは、ライブ配信ではなく、録画したものを、生徒とその家族のみの限定配信とした。
- ・各家庭には、学校だよりに添付した二次元バーコードでURLを周知した。
⇒参加できなかった生徒も当日の様子を見ることが出来たため、クラスの結束が深まった。



Google Meetによるライブ配信



YouTube動画配信